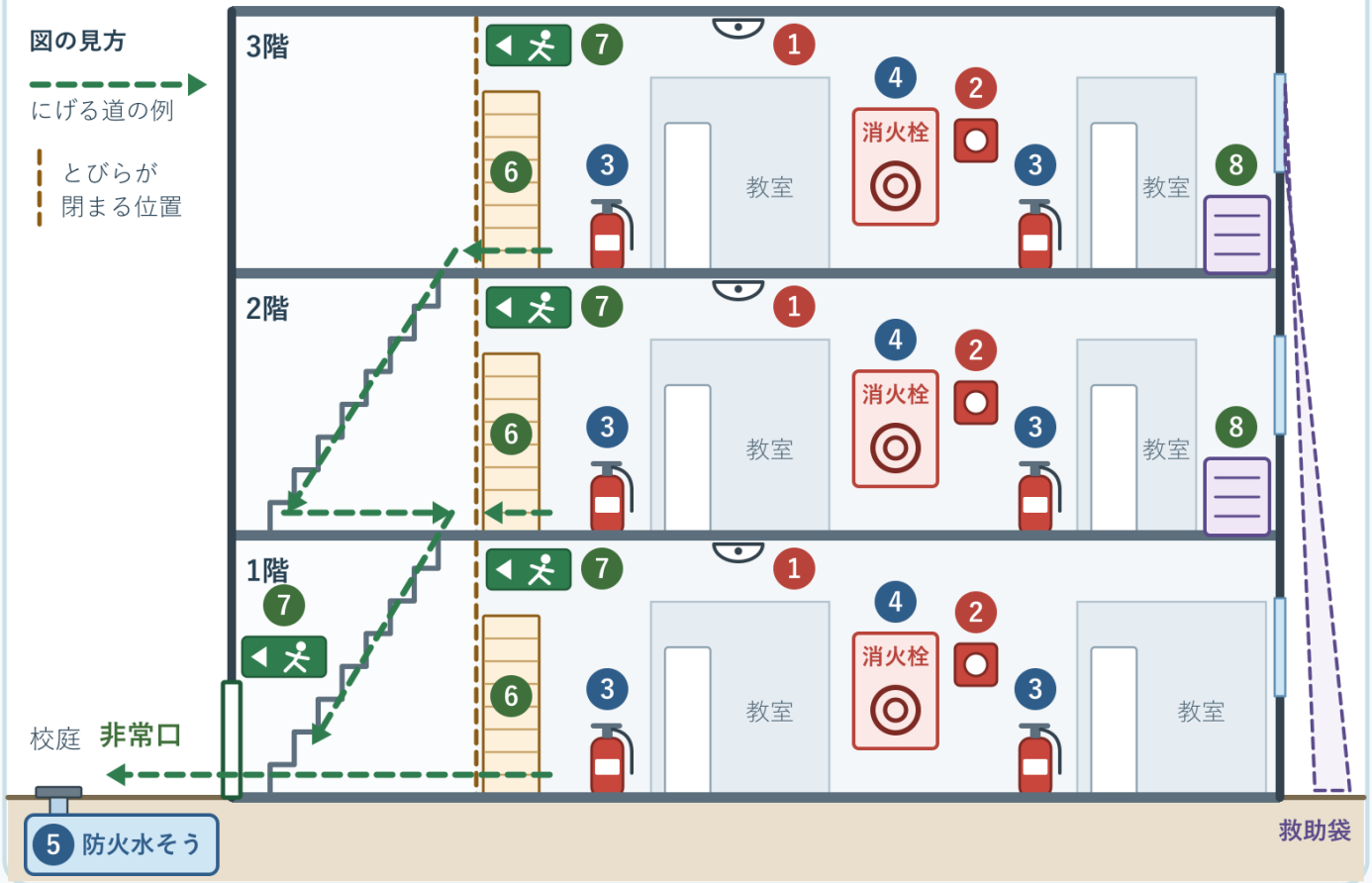
学校の中にある火事に備える設備

学校には、火事に備えてどんな設備が、どこにあるのかな。なぜその場所にあるのだろう

ろう下にそって校舎を切り、横から見た図（架空の学校）



知らせる（早く見つけて伝える）

1. **感知器（天井）**
   けむりや熱は上にのぼるから、天井に
2. **押しボタン（火災報知器）**
   見つけた人がすぐおせる、ろう下の壁に

消す（火が小さいうちに）

3. **消火器**
   どの教室を出ても近い所に置く
4. **屋内消火栓**
   ホースがとどくよう、各階のろう下に
5. **防火水そう**
   消防車が水をとる。校庭の地下にある

にげる道を守る

6. **防火とびら**
   階段の入り口。閉まると、火とけむりを階段に入れない
7. **誘導灯と非常口**
   にげる向きを光で示す。出入り口の上に
8. **避難器具（救助袋など）**
   階段が使えないときのために、窓の近くに

消火器や消火栓を使うのは大人。火やけむりを見つけたら、近くの先生にすぐ知らせる。いたずらでさわらない。

設備を置いて点検することや消防訓練は、法やきまりで決められている。自分の学校ではどこにあるかな。

※ 模式図。学校は架空。設備の種類・数・場所は学校によってちがう。点線の救助袋は、広げたときの形の例。